

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第65回「先手楽勝」

【余裕のある生活】

世の中は不景気だというのに、忙しく飛び回っている人が多い。インターネットの業界は不況知らずだという説があるが、それにしても忙しすぎる。私の友人の中には一日に1000通の電子メールを受け取る人がいる。これは、さすがに読み切れならしい。そうかと思えば、夜の9時に委員会の会合が終わったあと、仕事を片付けるために職場に戻る知人がある。そういう人は一日のほとんどの時間帯を会社で過ごしている。

そういう私も、十分に忙しい人間だと自覚している。ときには、仕事を片付けても片付けても、山積みになった仕事が一方向に減らないと感じる。そんな折に、ふと横を見ると、涼しい顔をして能率よく仕事を片付けている先輩がいる。早稲田大学の村岡洋一教授は、そういう先輩の1人だ。

そのような達人にあやかりたいものだと思って、少し観察してみた。もちろん個人の能力差という面も考慮すべきだと思うが、明らかに行動様式に違いがある。達人は仕事を見た瞬間に片付ける。一方、私は仕事が発生しても締め切り間際まで着手しない。この行動の違いが、両者の生活における余裕の違いをもたらすのだろうか。

【締め切りホルモン】

一見すると、締め切り間際に仕事に着手するのは、とても能率がいいように見える。

昔から火事場の馬鹿力という表現がある。いざ火事に遭遇すると、女の細腕でもたんすを持ち上げるという例だ。普段では考えられないような力を発揮する例はほかにもある。スポーツで本番に強い選手は、緊張感をうまく使うのだという。

大学で学生諸君とお付き合いしていると、実際に締め切り間際に力を出す例が、あらゆる場面で見られる。典型的な例は卒業論文だ。なかには締め切りよりも随分前に論文を書き上げて悠々と暮らしている学生も見受けられるが、大多数の学生は締め切り間際になってラストスパートをかける。これは私の学科だけではなく、卒業論文の締め切り間際には、理工学部の多くの研究室の照明が一晩中ずっと消えない。学部全体で同じような傾向にあると思う。

スポーツ選手の本番のように、締め切りが迫った状態では全力を出し切る。これは学生生活にも当てはまる。普段の生活からは思いもよらない力を発揮する学生がいるのは事実である。こういう場面は、まさに締め切りホルモンが分泌される状況だ。

【泥縄主義はいずれ敗北】

しかし、締め切り間際の泥縄主義には弱点がある。それは時間に追われているときには絶対にできないことがあるからだ。締め切り前夜に徹夜をすると、参考文献を調べたくなくても、図書館は閉まっている。プリンターのインクが切れても店が閉店している。

1人で仕事を進めることができる場合には、締め切りギリギリでも何とか間に合うかもしれない。しかし、他者に依存する仕事は片付かないことがある。友人に尋ねようと思っても、彼は帰宅してしまった。そこで電子メールで質問を出すと、そういうときに限って送信エラーに遭遇するものだ。

私の米国の友人は、日本人がよく働くのを見て、とても感心した。彼は日本人が偉いということより、深夜でも休日でも働ける職場の環境をうらやましいと思ったのである。なぜか休日になるとコピー機が故障し、平日でも秘書が夕方に帰宅してしまうとまったく事務処理ができなくなってしまうのが、米国の普通の会社だというのだ。

日米比較はともかく、締め切りギリギリではできないことがある。つまり妥協を強いられるのであるから、泥縄仕事の仕上がりはそれなりの水準に留まる。

【架空の締め切りを想像せよ】

私の後輩にも達人がいる。NTT研究所の勝野裕文氏は、学会の論文を締切日の一週間前に書き上げるので、皆が感心し

ていた。その秘訣を尋ねると、別に大したことはないという。自分で締め切りを一週間だけ繰り上げて想定すればいいというのだ。

これが簡単なようで意外に難しい。人間は正直なもので、いかに締切日を一週間繰り上げて思い込んでみても、本当の締切日を知っているからには、迫力が出ない。そこを人工的に早い締切日と信じるのだ。これは達人と凡人の想像力の差だと思う。あるいは頭脳の力といってもいい。

締め切りをたくさん抱えて暮らしていると、それだけで疲労を感じる。予定表やメモに書き込んだ情報でも、すっかり忘れるのは難しい。何となく締切日を覚えていて、なぜか突然思い出すことがある。これが頭脳の負担になっているような気がする。

結局のところ、達人は余裕を持って悠々と仕事をしているようだ。先手必勝という言葉があるが、むしろ先手楽勝というのがふさわしい。これに対して、締め切りに追われるように仕事をする人は後手必敗であり、しかも疲れている。他人事ではない。私も必敗のパターンなのである。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp